

#### 四、ミツデンドルフ

私は非常な興味を以てミツデンドルフの來訪を待ち受けました、フレーベルの話に依つて彼に就ては既に知つて居りましたし又彼の生涯の道連れとなつて三十年の上も苦勞を共にした眞實の親友を彼が有して居るといふことも知つて居ります。

「彼は子供のやうな男です、而して心から私を理解して呉れてゐます」とフレーベルは言ひました。二人はルツツオーの自由兵團の軍人であつたのであります、而して一八一三年の戦役の始つた頃に互ひに昵近<sup>ちかぢき</sup>となりました、而して生涯續く、生涯續くが故に更にそれ以上に續くべき稀有の友誼を結んだのであります。

九月の或日の午後フレーベルは私の家に來て彼

の友を紹介して「これがミツデンドルフでございます」と言ひました。質樸な飾る所のない、而かも同感を催させる彼の人柄を一たび見たものは決してそれを忘れることは出來ません。互ひに眼を見換<sup>みかは</sup>し手を握り合つたゞけで私達は友達となつてゐました。

フレーベルと同じくミツデンドルフは近頃ではあまり見受けぬ種類の人で近世に於て過去の典型ともなるべく現代にはふさはぬ人でありました、このタイプは欺罔を容るゝ能はざるより狡猾を知らず、無邪氣な子供らしさと心よさを持つ正直な僞らぬしつかりした獨逸人を現して居ります、而して現今の人々の世渡り上手や空虚な批評的唯智

主義とは著しい相異を示して居るのであります。

高尚な世界意識に於ける美しき單一性、過ぎ去つた人々の遺傳、これらのものがミツデンドルフをして他と異ならしめたのであります。自然の大なるいつくしみは彼に殆んど女のやうな性質を與へました。愛を以てすべての反對に打勝つこと、

不一致を調和させること、欠點が救はれ得ざりし時にその欠點を覆ひ隠すこと、暗き日に於いても少しでも良き方面を見んとすること、すべてを捧げて全能の神を信すること——これらすべてが子供らしい欣快と結び付いて彼に懷靈者の理想的な性質を與へました。斯る性質は過去の人々若しくは時偶村夫子に見ることが出来るのみであります。以上に述べたやうな譯でミツデンドルフはその地上巡禮の間、實にフレーベルの良き天使であつたのであります。彼は常に慰撫し平等にしやうと試みました、而して大家族に於て必要が起る毎に調停者となりました。

以上のやうな昔者の特性があつたにも拘らずミツデンドルフは尙又革新を望んで歇まない連中の一人でありました、如何なる青年も更に熱心にこの頼しき誘因を追及し、更に理想的なる振起を以てこの誘因に打込むといふことは到底企て及ばないといふ位に充分、益々高き進展を欲する近代的衝動を穿貫してゐる人々の一人でありました。

フレーベルの「生の革新」といふ主張は充分にミツデンドルフの心を捉へてしまひました。而してその頃この振起の後間もなく續いて來た失敗も彼からその正しい希望を奪ふことが出来ませんでした、即たとへ彼等が始の内は荒野を歩き廻らねばならなくとも、更によき時代のたのもしき世界と氣高き人類とは必ず到着せられねばならぬといふのであります、彼の望は子供にかゝつて居るのであります、——未來に於てすべての野蠻、粗暴、惡徳、怯懦と戦つて之に打勝ち、道徳によつて自由を得、更に美しき日の曉を見ることの出来るべき真

實を以て立派に教育せられた子供に彼はその望をかけてゐるのであります。これは彼には論争し難き確實でありました、彼はその確實性を疑ふ者を彼の感激的な語によつて得心させることが出来ました。彼は彼の靈に寫つた人間性の莊嚴を疑ふことが出来ませんでした。

この清新な若々しさを失はぬ老人が生きてゐて獨逸の今日の成功を見たならば甚麼に嬉ぶことであらう。

けれども彼は世に在る内幸福でありました、何故ならば彼は美の輝きに於てすべてのものを見る事が出来たからであります——偉大な完全な物の内にも微小なもの、隠れたるもの、内にも、すべての方面に於て神の尊き創造と指導とを看取することが出来たからであります。彼の自然との交通はフレーベルと同じく常に神の欽慕でありました、而して彼の心に詩的氣分を起させました、この詩的氣分は散歩の途上などで屢々詩句の形を取

るのであります。私はよく散歩の翌朝これらの詩句を私の机の上に見出すのであります、是等の氣取らない小詩は形式に於て傑作でなかつたにせよ純なる詩的情操が詠せられてゐたので讀者を熱せしめリーベンスタインの私達の仲間の内に起つた小さな事件や印象に光彩を放たしめました。四方から彼の上に名譽や愛や信賴が溢るゝ許りに注いで來る此の小さい仲間の内で彼は常に健康で且つ幸福でありました。

フレーベルも亦ミツデンドルフの居たために常に幸福であり快活でありました。彼はすべての心の感じ、彼等の生活の小事件に關するすべての考を彼と交換しました。何物もこの親しい友誼を破ることは出来ませんでした、時偶起る避け難い不快もフレーベルの思想の充分ならぬ理解及びそれのミツデンドルフに及ぼす結果もこの友誼を破ることは出来ませんでした。フレーベルはよく「ミツデンドルフは彼の感情を以てすべてのものを捉

へる、イデアをさへも彼は感情を以て捉へるのである、彼はすべてを捧げる、若し彼がゐなかつたならば私達は今私達が達し得た所まで達することは不可能であつたであらう」と言ひました。これはフレーベルの口から出たよく事理を辨へた言葉であります、さうです、若しミツデンドルフがゐなかつたならばフレーベルは多分彼の生涯の失墜と落膽から害はれずに逃れ出て來ることは出來なかつたであらう。

この靈魂の契合に於てミツデンドルフは男性的の力の傍に立つて慰め和らげ契合が強暴のために破られないやうに又變ることのないやうにと努める女性的半分でありました。物事のよき判断、人や事情の眞率な批評は屢々この仁慈な善良な感情の卓越に依つて爲された場合が多いのであります。ミツデンドルフは他人の惡を理解することが出來ませんでした、彼は何時も酌量すべき事情を持ち出すからであります。フレーベルの學生を判断

する場合にさへも彼とミツデンドルフの二人は彼等の望多き飾り立てた仁慈のために欺かれることが尠くありませんでした。

けれどもリーベンスタイン若しくはマリエンタルの學校の生徒は皆ミツデンドルフの訪問が常に無邪氣な詩的な平靜（或人は心の神聖な状態といふ）を齎したといふこと及び彼が巧みに彼等を快活ならしめたり向上せしめたりしたといふことを決して忘れはしませんでした。習慣の散歩をしてゐる時なぞ落日を望んでミツデンドルフは小さな唱歌帳を取り出し斜陽に對して讚美歌を歌唱することがよくありました、這麼時には若い娘達は共に合唱したり又は尠くとも疊句を唱ふのであります、植物や花が花環や花冠に織り込まれた時には彼はその讚嘆と驚異を利用して生徒に創造の叡智に興味を懐かしめてその法則を人間生活に適用せしめやうとしました。

事物の符號的性質は常にミツデンドルフに取つ

ては魅力がありました、而して彼の説明と比較は常に感官的でありました。彼に女性の心に對する偉大なる感化力を與へ又彼をしてフレーベルの天才の最もよき解釋者たらしめたものは彼の深き、男としては稀な感覺力であります。フレーベルの創造したものはミツデンドルフに攝取され深き歸依を以て研究され而して概ね親易き形となつて戻されるのであります。而して彼は忍耐力と撓まぬ勇氣と確固たる忠誠とを以て極くの最初から僅かに理解の希望を見出し得る偏狹者の群れ及び嘗つてフレーベルの方法の理論と實際應用とを學ばんと志したこともない一部の教師や教育學の大家の侮蔑的な又は全然非難的な批評に對してフレーベルの思想を辯護しました。若し誰でもがすべての人々の内に隠されてゐる特殊な性質の極致を如何にして齎すべきかといふことを理解したとするとミツデンドルフはフレーベルの特殊な性質の極致を如何にして明るみに引出すべきかといふこと及

び人間の弱點を大目に見てそれらを天才から別にして置くといふことを知つてゐます。この天才のすべての發言を彼は神託として受けたのであります。而して若しも彼に充分に分らない事があると彼は「其處には何か意味がなくてはならぬ譯だ、考へてみやう、それは他の部分と適合するであらう」なぞといふのが常でありました。

或る夕、ミツデンドルフと散歩を共にしてゐた時私は彼に言ひました。「フレーベルの教義と教育とによつて人々は可見的創造物を精神的なるもの、象徴として理解するやうにさせられ、私達が天啓と名ける經驗によつてその確證を見出すであります。眞理といふものは科學が自然の事物即物質世界から掘り出した眞理であつても又は啓發せられた心が天才の直接の靈感から授かる眞理であつてもその眞理たることに於て常に同一であります、たゞ私達はそれらの眞理を心の中なる元物——思想と比較して見るために事物の言語（即事

物の元の性質)を理解し得るやうになることが必要であります。然る時に私達は顯はれてゐる矛盾を説明することが出來ます。この解説は第一の理論の中に存在する二元論を革除します、この第一の理論といふのはたゞ不完全なもの、すべての實在の關係に關してのみ妥當で眞理殊に絶對といふやうなものに對しては効力がないものであります

最初に於て人々の心をして事物の結合及び創作的而して遂に効果的なる渾一を見るを得しめる所の教育は實際生活の事實及びその不完全にして變轉定りなき現象に於ける反對、矛盾によつて作り出された知覺の二様式を革除するに功がなければなりません、事物そのものにより並びに事物そのものを使用して施す所のこの教育、具象物を用ふるといふことは物質と精神、眞實と理想、宇宙と神、是等二者の間に橋を作る援助をなします、斯くして又子供の心に宗教的宇宙觀の根柢が置かれるであります。子供の心に先づ尠くも神によつて定

められた目的即調和及び相異の解釋を明瞭にすることを差し置いて殊更に自然と精神との顯然たる相異又は反對に留意するを常とするといふことは争はれぬことであります。子供の眼は常に先づ結合の要點たる類似、事物の全體の結合を捉へます而して然る後に始めて相異と反對とを認めるのであります。

現今に於ては人々は精神を重んじて自然を忘れ抽象を重んじて物體を忘れたやうであります、言葉は事物から離されてその役目を掌り而して概ねたゞ單なる空虚な言葉としてのみ理解されないやうになりました。フレーベルの方法と教義はこの過程と相反して居り而して先づその根本並びに原由として事實を外的、內的の經驗に結び付けるものであります。斯くしてこそ神の心なる眞實の精神が再び自然及び人心に於て同一物として認められ得るのであります。教育に關するフレーベルの理想は自然(神聖な自然)に對する人の關係を人々

の全き自覺にまで齎さうと努めます、而してそれに依つて基督教の教ふる如く神(精神に於ける)及びすべて神聖なるものに對する人の關係が於高く於明らかな認識にまで引き上げられなければならぬのであります。真理の一面は他の一面を論證し説明するのであります。

自然及び事物に對する現代の支配的傾向と實際生活の興味とは同一の目的に従ふべく強ひられるでありません。錯誤と醜劣な墮落とを持つた反對の半面があるにも拘らずこの傾向は神によつて定められた進展の過程に向つて一の必要であります而してそれは廻り遠い道を通るとはいへ人間性の深い智識を通じて遂にその目的に到達し精神物質兩界の間に横はる大なる灣に橋を架するのであります。進歩と改革に對する目下の要永と正しき高尚な努力とにフレーベルの理想が協和して神的思想なるものが現れるのであります。この教育上の新理想を正しく實現するといふことが何物よりも

生硬な物質主義を征服し理想主義のために途を拓いて實際的實在と調和させ而して眞實な理想通りな生活を再び調へることに與るのであります。

ミツデンドルフは輝く眼を以て私を見て而して云ひました。「あなたは心から出て私に話をして下さいました、私も亦理想といふものをさういふやうに考へてみました、さて私は今まで誰にも話さなかつた私の考をあなたにお話しませう、この自然の渾一の思想が研究され教育の適用のために用意されるやうになつたのは全くこの真理の中に生きこの真理を味つたことのある人に依つたからであります、フレーベルは自然と堅く默契して生活して來ました、普通一般の人々と同じく彼も亦人間的弱點や缺點を持つてゐましたが夫等はこの結合を妨げることは出來ませんでした、たゞ神の特別な思召によつてのみこの事は起り得るのであります、而して人間界に悪や悲哀が存在すればこそ其處に言ひ現し難き慰めが横つて居るのであります

す。あなたの仰有ることは事實であります、一の眞理は他の眞理を常に論證するものであります、既認の眞理は新しき眞理が見出される毎にいや明かにいや深く理解されるのであります。現今甚しく誤解誤傳されてゐる基督教の精神は子供に於て新生命にまで喚び覺まされるのでありませう、而してフレーベルの教育理想が實際に適用された時にそれは新しき於貴き光となつて現はれるでありませう。これは私の深く信じて疑はぬ所でありませう」

私はこれに應じて言ひました、「けれども如何にして我々は子供の遊戯に依つてこの理解し易きものと理解し難きものとの間に結合を行ふことが出来るませうか？ 如何なる方法で深遠な理想を斯る無意味な形に結び付けるのでせう、私にはそれが實は分らないのです。今の世間の様子では若し私達かそのやうな意見を聲高に話したら私達を嘲り笑ふでせう。それでも尙私は或る事に打込んだら

その事をいゝ加減にして置くことは出来ない性質ですから單にその主題の實際的の外面のみを以て満足してゐることは出来ないであります」

ミツデンドルフは答へました、「けれどもそれは斯うするより他は仕方がないでありませう、つまり充分謙遜な態度で小さいものを養ひ育てるので、私達が死んでズウツト後に未來に於て繁茂し榮える所の種子を撒くといふことです、けれどもその進展を念としてゐることは決して些事ではありません、否寧ろすべての時代の人々に取つても重大な最も重要なことであります。」

私は答へました、「それはよく分りました、けれどもすべての人は自ら延び自らの生活をしやうとして居ります、而して大きくとも小さくとも自分の力に適つただけの仕事を何かこの世に残して行きたいと望んで居ります、私の考ふる所では最高の満足は自分の心を寫すべき何物にも頼らざる美しき仕事によつて與へられます。常に拒み難き力



を以て新しく起つて來て聽聞を要求するが故に靜止させて置くことの出来ない衝動——表現の内的衝動によつて驅らるゝ何物かを心の中に持つ者は誰でも等しくこの言葉を發するのがきまりです。それは神様の思召です。而して而して若しも彼の姓名を附することなくしてこの仕事のために願望し努力するものがあつたならば我々はその動機が人格的虚榮より以上に高尚なものであるといふことを信ずるものであります、それなのに人といふものは他の理想を象どり表すために己の理想、己の心の子供を犠牲にしなければならぬのでありませうか、而かも又他の一面に於て私は大きく人間社會のために働き、人間社會のために現代及び次代の若き人々の中から善良な人、勇敢な市民、偉大な天才を教育する方が遙かに有益であると思ふのであります。

若しも創造の神火が點せられ今まで養はれたよりもつと完全に現代及び未來の人々の内に

養はれたならば一の心の仕事を捧げてしまふ代りに、もつと偉大なもつと種類の異つた幾千の仕事が用意されるでありません、すべこの事は否むべからざる事實であります、けれどもそれは若干の程度に於て我々自身の成長進歩の犠牲を要求します、乃で決心が容易でなくなつて來るのです」

この時丁度フレーベルが二人の會話に口を入れました、而してそれまで長い間何を話してゐたのかと尋ねました、私達は彼に今までの話の終の方を話しました、すると彼は私の方に向き直つて語りました、「斯る問題に於ては内的必然性が決定します、人類全體に關する眞理を實際に認めたものは自分で望んでも望まなくてもその眞理を事實の上に現しそれに従はなければなりません、若しもあなたがこの内的必然性を見出したならばそれはあなたを強ひるでせう、凡そ世の中のことは犠牲を拂はずに得られることはありません、而して人は一般的善事を爲し得る時には個性（フレーベル

はそれを特性と呼んでゐます)は、たとへそれが甚  
麼に立派に完成せられて居るものでありましても  
その主張を撤回しなければなりません、吾國が危  
殆に瀕してゐるといふやうな場合には智識あるも  
の技量あるものがそれによつて如何に多く失はれ  
やうとも凡そ武器を手にし得るものはすべて戰場  
に趨らねばなりません、而して人類のために働く  
といふことは個人的な如何なる事を行ふよりも高  
尙なことであります」

私は言ひました、「それは仰有る通りです、全體  
は部分より勿論勝つて居ります。私は誰にも勝し  
てあらゆる方面に於て人類に創造力を振興させ更  
に思想を實行にまで持ち來す理想といふものを尊  
重するのであります。けれどもそれは世界をして  
俗物及び人形から免れしめることが出來ませうか  
私はそれを信ずることが出來ません」

フレーベルは答へて言ひました、「何のやうなこ  
とがあらうともそんなことがあつてはなりません

舟といふものは脚荷を要するではありませんか、  
若しも私達が(あなたの仰有る)俗物を有さないと  
するとこの世界が何うして立行くでせうか? 誰  
が毎日の注意や雑務に従ふでありますか? す  
べての仕事は特別な力を必要とします。自然はす  
べての必要な力を供給してくれます、而して人類  
教育はこれまでのやうに最も多く最も善きものを  
拒むことなくそれその種類の種類に従つて是等の力を  
發達させて行かなければなりません。而してこれ  
によつて人々は己の尊嚴を自覺せずして駄獸の如  
くに働くことを避けるべきであります。薊の藪か  
ら薔薇を作らうと試みない教育はすべての技量や  
性向を賢く利用し各人をその適當な場所へ連れて  
行き其處からもう他へ行かうと望まないやうにし  
ます。私の教育方法は正しく適用されると確かに  
この目標に到達することが出來ます——換言すれ  
ば漸次に一步步々に適用されれば上に述べた結果  
に達することが出來るのであります。若し私達が

自然を強ひたり又はそれに特有な傾向と反對な方向にそれを追ひやらなかつたならば、若し私達が丁度賢い園丁が植物を扱ふやうに、その概則を認めてゐて各の特別な力に自由な發達とその要求するすべての保持と注意とを與へたならば人間の力はその花を持つのに如何に助けらるゝか分りません。けれども草木が自分の生活力によつて成長して行くやうに人間の力もそれ自身の練習と努力とによつて偉いものとなつて行かなければならないのであります。外部からの刺戟や支持は些少すこでもあつてはなりません、自然界の諸物はその分ぶんに止つてゐて其處で己の宿命を充して行きます、草は木になることも蟲や鳥になることもありません、同じやうな調和が人間界に持ち來されるのであります、而して各人はそれぞれ自分の職業に従つて働き而して生きて行くのであります。人間界に於ける自覺を以て自然界の無意識的調和に到達することが神が人々のために定め給へる目標ゴールであり

ます。戦争、紛擾、争鬭、軋轢、苦惱、錯誤、罪惡はすべてこの目的に達すべき手段として存在するのであります、自然界には多くの争ひがあります、反對がなければ居中調停が有る筈がなく、不秩序の解決がなければ調和がある筈がなく、勞作がなく妨害物を超える努力がなければ完成がある筈がありません。

是等はすべて耶蘇が我達に教へたのでありますけれども教授及び洞察だけはそれに到達しませんそれは耶蘇がそれを行うたと同じやうに行はれねばなりません。私達は子供が眞實基督教徒とならうと望むならばこれを實際的に快活に教育しなければなりません」

「而して斯る教育に於て大なる分け前が婦人に屬してゐるのであります、その事に就ては私達はすべて同意見であります」とミツデドルフが言ひました、「婦人はその教育的天職を僧職的職務の如く重んじなければなりません」

私達は既に私の住居の人口にまで来て了ひました、乃で私達の會話もこれで終りになりました、私はそれから夜を更かして以上の話に添加的な説明的な評釋を書いて居りました。

「あなたのお友達のおミツデンドルフは偉い方ですね、あの方は何うしてもあの方に同意しなければゐられないやうに温情に充ちて心から話をなさいますね」とイダ女公が言ひました、女公はミツデンドルフが幼稚園の事に就て語るのを始めて聞かれたのであります。

私達はリーベンスタインに幼稚園を建設する資金を給してくれたこの富籤に向つてこの温き印象に負ふ所が特に多いのであります。これは間もなく事業に實際生活を與へた程種々な贈物や同情を以て裕かに支えられました、而して最大の贈物は公女達やマイニンゲンの女公やその姉妹なるヘツセのカロツネやイダム公女から贈られたのであり

ました。

フレーベルとミツデンドルフが贈物（それら或る物は美しき美術製作品でありました）で蔽はれたテーブルを見た時、ミツデンドルフは非常に感じて言ひました、「是等の愛の贈物は私達が假令多くの場所に於て求めて與へられないことがあらうとも私達の事業が必要な支持に事缺いて失敗するやうなことはないといふ確信を懐くやうに私達に勇氣附けます、フランクフルトの國民協會から幼稚園に關する私の覺書に對して極めて貧弱な褒賞を受取つた時にも私は失望しませんでした。人が子供時代の極く初期から子供を教育するといふことが國民の政治的並びに道德的自由を持ち來すべき第一條件であるといふことを知る時がやがては來るでありませう」

私は答へて言ひました、「さうです、要められつつある政治的改革とこの教育の要求とが認められ味はれる時が來るのでありませう、けれども私達

の生きてゐる内にはそれはまだ望まれますまい、何故ならば政治が人々の心をすつかり吸ひ寄せてゐますから子供のためのこの穩やかな植付は見逃されてしまふからであります」

「それならば私達は見逃されぬやうに獨逸國中に是等の苗床を植付けなければなりません」とミツデンドルフが言ひました。

私は言ひました、「私はそのお手傳ひをしませう誰でも時勢を知るものは仕事といふものはたゞ話をしてゐるだけ考へてゐるだけのものではなく働くことをも含んでゐるといふことを知つてゐます私達の幼稚園とするによささうな家の一つ探しに出掛けやうではありませんか」

ワイマルも亦宮庭に幼稚園といふものゝ興味が入つたことに對してミツデンドルフに感謝しなければなりません、私の勢力によつて彼は一八四九年の秋に於てカイルハウから出て來て數日滞在し

講演を二度するやうにと招かれました。公會席上に於てなされた講演は多數の聽衆の興味を高き調子に引き上げました、而してその翌年ワイマルに開かれた幼稚園の維持に對してこの時根柢を置いたのであります、もう一つの講演は大公の宮邸内に於て公族ばかりお集りの席上で演じたものでこれがために私はフレーベルの主義を更に押し進めて行くために必要な資金を殿下達から頂きました、それから殊に當時の大女公(露西亞王女)の保護の下にあつた養育院に彼の専門を紹介することに於て殿下達のお蔭を得たのであります。

ミツデンドルフが始めて公ならぬ宮邸のお催しに出席して素直に氣取らずに而かもしつかりとして而して彼の癖として眼を半眼に見開いて泉のやうに湧き起つて來てすべての聽者の胸に浸み徹つて行く言葉を放つた時、手輕な撲實に馴らされてゐない群れの内に於てすべてよきものに對しては直ちに興味を持たれる大公は「まア何といふ鼓吹

的な人だらう」と叫ばれました。

ミツデンドルフは講演を終つてしまつた時に私に「うまく出来ましたらうか」と聞きました、私は私の心の底から「上出来でした」と言ふことが出来ました。

その翌年の夏(一八五〇年)私達は更に交際を深くするためにリーベンスタインで一緒になりました。是等の追懷を辿つて行きますと私達の思ひはミツデンドルフにまで運ばれますが更に彼の性格を語つたものにはヴェー、ランゲ氏のミツデンドルフの性格評があります、而してその中には美しい話が見られて居ります、それから少し経つてハインシュマンも彼の著書「フリードリッヒ、フレールの追懷」に於て彼の性格に就て書いて居ります。ディーステルウエヒも亦彼の「ライニツシエ、ブレツテルン」の中でミツデンドルフに關する断片的な記事を公にして居ります、その中のあるものはディーステルウエヒの望に任せて私が寄稿したの

であります。

